

財務諸表に対する注記

1. 継続事業の前提に関する注記

該当なし。

2. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

- ① 満期保有目的の債券は、償却原価法(定額法)によっている。
- ② その他有価証券は、市場価格のあるものについては時価評価によっている。

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

該当なし。

(3) 固定資産の減価償却の方法（法人会計）

法人税法の規定に基づく定額法により償却している。

(4) 引当金の計上基準

- ① 「賞与引当金」は、職員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。
- ② 「退職給付引当金」は、職員に対する退職給与金の支給に備えるため、退職給与規程に基づく期末要支給額を計上している。
- ③ 「役員退職慰労引当金」は、役員に対する退職手当に備えるため、役員の報酬及び費用に関する規程に基づく期末算出額を計上している。
- ④ 「貸倒引当金」は、福利貸付金の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率、貸倒懸念債権については財務内容評価法により計上している。

(5) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

(6) キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な普通預金及び預入期間が3ヶ月以内の定期預金からなっている。

3. 会計方針の変更

該当なし。

4. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。 (単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産	0	0	0	0
特定資産				
給付責任準備金引当資産	9,808,612,550	1,923,905,889	2,510,460,017	9,222,058,422
退職資金準備金引当資産	1,200,000,000	0	0	1,200,000,000
退職給付引当資産	10,000,000	0	0	10,000,000
合 計	11,018,612,550	1,923,905,889	2,510,460,017	10,432,058,422

5. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。 (単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産	0	0	0	0
特定資産				
給付責任準備金引当資産	9,222,058,422	(0)	(0)	(9,222,058,422)
退職資金準備金引当資産	1,200,000,000	(0)	(0)	(1,200,000,000)
退職給付引当資産	10,000,000	(0)	(0)	(10,000,000)
合 計	10,432,058,422	(0)	(0)	(10,432,058,422)

6. 担保に供している資産

該当なし。

7. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。(単位：円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
車両運搬具	4,884,360	1,681,740	3,202,620
什器備品	3,636,453	2,560,462	1,075,991
合 計	8,520,813	4,242,202	4,278,611

8. 債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高

債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高は、次のとおりである。(単位：円)

科 目	債権金額	貸倒引当金の当期末残高	債権の当期末残高
1年内福利貸付金	295,436,000	360,431	295,075,569
福利貸付金	1,861,710,000	5,797,090	1,855,912,910
合 計	2,157,146,000	6,157,521	2,150,988,479

9. 保証債務等の偶発債務

該当なし。

10. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、次のとおりである。(単位：円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時 価	評価損益
国 債	699,315,500	731,708,600	32,393,100
特別債	300,000,000	313,995,000	13,995,000
地方債	470,000,000	491,184,310	21,184,310
事業債	1,697,963,350	1,769,048,550	71,085,200
外国債	2,529,051,400	2,522,630,000	△ 6,421,400
合 計	5,696,330,250	5,828,566,460	132,236,210

11. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

該当なし。

12. 基金及び代替基金の増減額及びその残高

該当なし。

13. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

該当なし。

14. 関連当事者との取引の内容

該当なし。

15. キャッシュ・フロー計算書の資金の範囲及び重要な非資金取引

現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている金額との関係は以下のとおりである。

前期末		当期末	
普通預金	437,212,788円	普通預金	382,997,716円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	—	預入期間が3ヶ月を超える定期預金	—
現金及び現金同等物	437,212,788円	現金及び現金同等物	382,997,716円

また、重要な非資金取引はありません。

16. 重要な後発事象

該当なし。

17. その他

(1) 「給付責任準備金」は、被共済者に対する退職給付金の支給に備えるため、共済制度規程に基づく期末給付金相当額を計上している。

(2) 「退職資金準備金」は、会員に対する退職資金給付金の支給に備えるため、施設制度規程に基づく期末給付金相当額を計上している。

(3) 満期保有目的の債券の「野村ホールディングス株式会社第2回期限前償還条項付無担保社債」は、劣後特約及び条件付債務免除特約が付されている。

(4) 満期保有目的の債券の「株式会社三菱東京UFJ銀行第36回期限前償還条項付無担保社債」は、劣後特約が付されている。

(5) 沖縄県農業協同組合への長期貸付金は、劣後特約が付された金銭消費貸借である。

(6) 全国共済農業協同組合連合会の退職年金共済による資産運用を平成25年12月より開始した。